

全SSをベストタイムで駆け抜けた細谷／高橋組が優勝!!



「18割の走り」に徹しつつ、見事RC-2クラスで優勝を手中に収めた細谷裕一／高橋直美組。

今

回のオールスターラリー、初だったのは開催地だけではない。千葉県で史上初めてSSラリーとして開催されたエポックメイキングなラリーとなった。これまでアベレージラリーは開催してきた千葉県だが、様々な事情でなかなかSSラリーの開催が実現することはなかったのだ。

「デイラリーでSSラリーをやりたいという思

いは、千葉県のラリー界では以前からあったんです。これまでは許認可の問題がネックだったんですが、許可をもらうためにはメジャーなラリーを持ってこないと自治体もうんと言わないだろうということで、いい機会だったのでオールスターラリーの開催を進言したんです。今回使用した林道は、昼間はほとんどクルマも通らないという点も占有許可の取りやすさに貢献し

たと思います。でも、正直ここまで来るのは大変でしたよ」

と苦笑するJMRC関東ラリー部会長の千葉文司氏だが、以前から市役所や観光協会のバックアップはあったものの、許認可の取得が実現するまでに10年以上が費やされたという。

それほど苦勞して実現した千葉県でのオールスターラリーは、房総半島の南端に当たる南房



1.2.お祭りのように参戦した上原利宏／佐瀬拓野組。「ラリーは面白かったです」と、RC-4クラスで優勝を飾った。



3.4.「最終SSはフルアタックです」と、SS7でのミス挽回した走りでのRC-3クラス優勝の西郷匡英／中島昌也組。





5.RC-4クラス2位の嶋村徳之／小坂典嵩組。6.張田慎敬／石田裕一組がRC-3クラスで2位。7.RC-2クラス2位の鈴木歩／松浦一也組。8.RC-4クラス入賞の皆さん。9.RC-3クラス入賞の皆さん。10.RC-2クラス入賞の皆さん。11.阪本享／八尋俊一組がRC-4クラスで3位。12.RC-3クラス3位の川本圭祐／廣田幸子組。13.藤田勝正／菅野総一郎組がRC-2クラスで3位。

総市を中心として開催された。スタート&フィニッシュはホテル&リゾート南房総。土曜日にレッキヤドライバーズ・ブリーフィング、ウェルカムパーティなどを行い、日曜日のワンデイレリーとして開催された。

SSはオールターマックとなる3本の林道を使用し、セクション1に4本、セクション2に4本の計8本、最長SSは6.38km、SSトータル36km、リエゾンを含めた総走行距離161.18kmという設定となった。このラリーにエントリーしてきたのは25台。フルエントリーにはほど遠いが、リタイア車も出るなど白熱した戦いが繰り広げられた。

2.9kmのSS1では、RC-4クラスに参戦してきた菅原英剛／小藤圭一組の総合ベストタイムで幕を開けた。オールスターラリーではクラス優勝を果たすと、翌年の全日本ラリーのエントリー費の半額券が授与されるが、菅原選手は「半額券狙いじゃないですよ。単に走りたくて参加しました」と、あくまでラリーを楽しむ姿勢。だが、全日本ドライバー上原利宏選手にも

秒単位で差をつけ、セクション1の全SSでベストを叩き出しトップで折り返す。

セクション2に入るとようやくエンジンがかかってきたか、上原利宏／佐瀬拓野組がSS5で菅原／小藤組に2秒差をつけるベストタイムをマーク。ところがこれで気合いが入りすぎたか、菅原／小藤組は続くSS6でクラッシュしてリタイア。全日本の実力を見せつけた上原／佐瀬組が、群馬の若手No.1と目される嶋村徳之／小坂典嵩組に20秒の差をつけて優勝した。「半額券狙いではないですけど、お祭りだし毎年出るので参加しました。路面にコケが生えてたりおかないところもありましたけど、ラリーは楽しかったですよ」と語る上原選手だが、意外にもオールスターラリー初優勝。ただ、言葉通り半額券は辞退し、2位の嶋村選手が半額券をゲットした。

RC-3クラスでは西郷匡瑛／中島昌也組がSS1からベストタイムをマーク。過去には千葉スペシャリストと異名を取った張田慎敬選手に大差をつけてSS6までトップを快走。しか

し「SS7のスタートでタイムカードを車内に落としてしまっ、それを探していたら20秒ほどロスしてしまいました」と2位に転落。「最終SSはもうフルアタックでしたよ(笑)」と再び張田慎敬／石田裕一組を逆転。張田／石田組に4秒差をつけて優勝。めでたく半額券もゲットし「2019年は全日本に挑戦します」と意気込みを新たにしていた。

RC-2クラスでは細谷裕一／高橋直美組がSS1からベストタイム。「いやぁ怖いコースですね。一瞬でも気を抜いたらどこに飛んで行くか分からない」と語りながら全SSでベストタイムをマークするブッチぎりの走りでも完全優勝。細谷選手も「本当は半額券狙いなんですけど、自分のクルマは古くて全日本に出られないので、2位の方に譲ろうと思います」と半額券を辞退した。

今回のラリー開催による地元住民の反響についてはまだ不明ではあるものの、ラリーに対してある程度は興味を持ってもらえた様子だった。これを機に今後もラリーが千葉に根付いていくことが望まれる。



JMRC 地区対抗戦 & TRD RALLY CUP

14. 地区対抗戦は関東(中央)が優勝し、九州(左)が準優勝続いた。15. TRD2クラス優勝は川名賢／谷口いづみ組。16. TRD2クラス入賞の皆さん。17. 中村祐太／新井祐一組がTRD1クラスで優勝。18. TRD1クラス入賞の皆さん。